

3 学年

実践例

まとまりをとらえて読み、

かんそうを話そう

(全9時間)

1. こんな学習をしよう。

☆☆☆

- 遊びについて書かれた二つの文章を読もう。
- まとまりに気をつけて「言葉で遊ぼう」を読もう。
 - ・「初め」「中」「終わり」をかくにんしよう。
 - ・「問い」の「答え」を見つけながら読もう。

文章の中にあるいくつかの小さなまとまりをだん落というよ。書き出しが一字分下がっているね。

くいかえし出てくる言葉や、題名とつながりのある言葉などだじだと思ふ言葉に気をつけて読もう。

2. 「こまを楽しむ」を読もう。

☆☆☆☆

- 「言葉で遊ぼう」と同じように「初め」「中」「終わり」に気をつけて読もう。
- 「問い」の「答え」を見つけながら読もう。
- 「中」の文章の書き方を学ぼう。



3. 「中」の書き方をさんこうに自分が作りたいこまについて書こう。☆☆

- 自分が作りたいこまと、その理由を発表しよう。
- 感想を伝え合おう。学習をふりかえろう。

第3学年 国語科学習指導案

1. 単元名 「まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう」
教材名 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」(光村図書三上)

2. 本単元で付けたい力

- 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 【C(1)イ】
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 【C(1)オ】
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 【伝国(1)イ(ア)】

3. 言語活動例

記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。

C(2)ウ

4. 単元について

単元観

○本単元では、単元を貫く言語活動として、「説明的な文章を読んで感想を交流する」を設定した。文章を読むとは、「何が」「どのように」書かれているかを読むことであり、根拠のある感想をもつことは、段落に基づいて、文章の全体構造をとらえて読むことへの意識につながると考えている。また、感想を交流することにより、違った角度から深い読みへとつなげていくことができると考える。

○本単元は、2教材で構成している。見開きで全文を見渡せる第一教材で、3年の説明文の読み取り方を習得し、より長い第二教材で、学んだ力を活用し、定着を図ることをねらっている。第一教材「言葉で遊ぼう」では、まず、「段落」がどういうものか確かめる。そして、全体が「初め」「中」「終わり」に分かれること、「初め」に「問い」があつて、「中」に「答え」があり、「終わり」には、全体のまとめが書かれていることを捉えさせる。第二教材「こまを楽しむ」も同様の構造であるから、二つの教材文を読むことで、説明的な文章を正確に読み取るために必要な、「段落」に基づいて全体構造をつかむ力が身に付くと考えている。

児童観

省略

指導観

○第1次では、まず、「言葉で遊ぼう」を読み、「段落」を知り、「初め」「中」「終わり」を確認する。そして、「問い」と「答え」から、各段落の内容を捉えさせていく。そして、「終わり」を読み、感想を交流させる。

○第2次では、「こまを楽しむ」を通読し、第1次で学習したことを基に、全体の構成と内容の大体を捉えさせる。そして、「問い」と「答え」に着目させ、各段落の内容を読ませる。また、「初め」「中」「終わり」の「中」の段落の書き方について学ばせておく。

○第3次では、第2次までに学んだことを生かして自分ならどんなこまを作りたいか考え、「中」の段落の書き方にならって書かせる。そして、書いたものを互いに読み合い、感想を交流させ、最後に単元の学習を振り返る。

5. 単元構想（単元計画と評価）

単元を貫く言語活動 説明的な文章を読んで感想を交流する。

単元の目標

- 「段落」について知り、「初め」「中」「終わり」の文章構成や、それぞれの段落の内容をとらえることができる。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人のとらえ方違いに気付くことができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・いろいろな遊びが説明されている文章に興味をもち、進んで読もうとしている。	・「段落」を理解し、その内容に基づいて、文章全体の構成を理解している。【C(1)イ】 ・文章を読んだ感想を交流し、一人一人のとらえ方の違いに気付いている。【C(1)オ】	・感想を伝える際に、適切な言葉を用いている。【伝国(1)イ(ア)】

指導と評価の計画（全9時間）

〈蓮池版習得・活用型授業Bパターン〉

		学習内容	評 価			評価方法
			関	読	言	
第一 次	1	○学習のめあてを知る。 ・二つの教材文を読む。	◎			・説明されている文章に興味をもっている。 発言 行動観察
	2	○まとまりに気をつけて、「言葉で遊ぼう」を読む。 ・「段落」を知り「初め」「中」「終わり」を確認する。		○		・通読して大体的内容を読み取っている。 ノート
	3	○「問い」と「答え」を確認する。 ・「問い」の答えをめやすに内容をとらえ感想をもつ。		○		・「問い」と「答え」となる「言葉遊びの名前」「言葉遊びの楽しみ方」をとらえている。 ノート
第二 次	4	○「こまを楽しむ」を通読して内容の大体を捉える。 ・「初め」「中」「終わり」のまとまりをとらえる。		◎		・「初め」「中」「終わり」のまとまりを捉えている。 ノート 発言
	5	○「問い」と「答え」に着目して各段落の内容を読む。		○		・「問い」に対する答えをまとめている。 ノート
	6 7	○事例の中の文章構成をとらえる。 ・「中」の各段落の構成を確認する。		◎		・各段落の説明の仕方に注目させる。 ノート
第三 次	8 本 時	○中の書き方を参考に自分が作りたいこまについて書く。 ・自分がいちばん遊んでみたいこまと、その理由をまとめる。		○		・各段落との構成の違いを捉えて自分の説明に生かしている。 ノート 発言
	9	○書いた文章を互いに読み合い感想を交流する。		○		・交流して感じ方や考え方の違いに気付いている。 発言 ノート

学習を支える指導

- ペア学習をすることで、友だちの意見を聞き自分の考えを深めさせる。 (学習集団育成の視点)
- 根拠を明確にして自分の考えを伝えさせる。 (表現力育成の視点)

6. 本時の指導（8/9）

（1）目標

○事例の中の文章構成を捉え、自分が作りたいこまについて書くことができる。

（2）評価規準

B 概ね満足できる状況

◆各段落の構成を捉えて読み、自分の文章に生かしている。

A 十分満足できる状況

◇各段落の構成を捉えて読み、自分の文章に生かして書き、友だちの文章との違いを考えている。

（3）本時における研究主題の追究

本時における思考力・判断力・表現力

構成をとらえ、作りたいこまについて自分なりの文章で表現する力

【板書の工夫】

○板書でまとめた構成を色分けするなどして、整理された構成であることを示す。

- ①「名前・楽しみ方」赤
- ②「つくり」黄
- ③「とくちょう（回っているようす・回し方）青

《軸となる本時の言語活動》

本文の構成にならって自分が作りたいこまについて、文章を書く。

【個別支援の工夫】

○構成が理解できていない児童には、個別にワークシートを用意しておく。

(4) 展開

学習活動		○主な発問や指示・児童の姿	◎支援◆評価（評価方法）
つかむ (5分)	1 前時までの学習を思い起こし、本時の学習のめあてを確かめる		◎前時までの学習の内容を想起させる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>本時の課題</p> <p>自分が作ってみたいこまについて、文章を書こう。</p> </div>			
考える (20分)・学び合う (15分)	2 自分が作りたいこまを考える	○たくさんのこまを知って、どう思いましたか。今度は、もし自分で自由にこまが作れるとしたら、どんなこまを作るか、考えてみましょう。 ・空を飛ぶこまを作りたい。 ・音の出るこまを作りたいな。 ・ぴかぴか光るこまもいいな。	◎板書でまとめた内容を色分けするなど「段落」内の構成を分かりやすく提示する。
	3 自分が作りたいこまについて、本文の構成にならって、文を書く	○考えたこまを、「こまを楽しむ」と同じような文章で説明してみましょう。 ○まず、こまの名前と楽しみ方を書きます。次に、こまがどういう作りになっているか説明します。その後、回っているときの様子やまわし方の様子の説明を書いてください。	◎構成が理解できていない児童には、個別にワークシートを用意しておく。 ◆各段落の構成を捉えて読み、自分の文章に生かしている。(発言・ノート)
	4 書いた文章を読み合い感想を伝える	○文章をグループで読み合い、感想を伝え合いましょう。 ・空を飛ぶこまは、とてもすてきだと思った。 ・こまの名前も楽しみ方も書けていました。	◎友達の文章を読み自分との違いを発言させる。
まとめる (5分)	5 学習の振り返りをする	○今日学習したことをノートに書きましょう。 ・「こまを楽しむ」も「言葉で遊ぼう」も説明文の書き方は同じだけど、自分で書くのは難しかった。 ・〇〇さんは、こまの回し方も書けていたのでよいと思いました。	

【板書計画】

〇〇さん

こまの
絵

① 音楽こまは、音楽を楽しむこまです。
② こまの中には、オルゴールが入っています。
③ こまが回っている間、音楽が鳴り続けます。

先生

作りたいこま

③ とくちよう（回っているようす・回し方）

② つくり

① 名前・楽しみ方

書き方

① 色がわりこまは、回っているときの色を楽しむこまです。
② こまの表面には、もようがえがかれています。
③ ひねって回すと、もように使われている色がまざり合い、元の色とちがう色にかわるのがとくちようです。

こまを楽しむ

安藤 正樹

④ 自分が作ってみたいこまについて、文章を書こう。

【資料】

① 「こまを楽しむ」教材分析シート

② 家庭学習とのリンク

説明文教材分析シート（二版弘行 説明文「自力読み」の学習過程に基づく）

年	【教材名】 こまを楽しむ			
①基本構成 (序論・本論・結論)	序論(はじめ) ①	本論(説明) ②③④⑤⑥⑦	結論(おわり) ⑧	
②序論の性格	大きな問い			
③本論の性格	大きな問いの答え			
④意味段落 分け(小部 屋)と小見 出し(小部 屋の名前)	1	2	3	⑤
	①	②~④	⑤~⑦	⑧
⑤意味段落の 要点まとめ (小見出しを もとに)	どんなこまがあるのか	こまの種類	こまの種類	日本には様々なこまの種類がある こまのつくりや工夫を加え、回る様子や回し方で楽しみ方を生み出してきた
⑥論の展開 (部屋の並べ方)	大きな問いの答えを段落ごとに読み手にとって、より分かりやすい事例から順に述べている。			
⑦文章全体の 要約 (意味段落の要点 をもちに)	色がわりこま、鳴りこま、さか立ちこま、ただきこま、曲こま、すぐりなど、日本には様々な種類のこまがある。こまは、それぞれ色も形もちがうが、こま作りに工夫を加え、回る様子や回し方で様々なこまをたくさん生み出してきた。			
⑧要旨 (筆者の伝えたい 「事実」「考え」 の中心)	日本人は、こまのつくりや工夫を加え、回る様子や回し方で様々な楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきた。			
⑨筆者への メッセージ	【筆者の伝えたいことについて】 日本には、様々な種類のこまがあり、日本人はこまのつくりや工夫を加え、回る様子や回し方で様々な楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきた。			
	【伝え方について】 大きな問いの答えを、各段落で述べ、最後に筆者の考えとともにまとめている。			



家庭学習で、自分の作ってみたいこまを設計図にかいてきました。

家庭学習で考えたことをもとに、自分が作ってみたいこまについて構成に気をつけて文章を書いています。



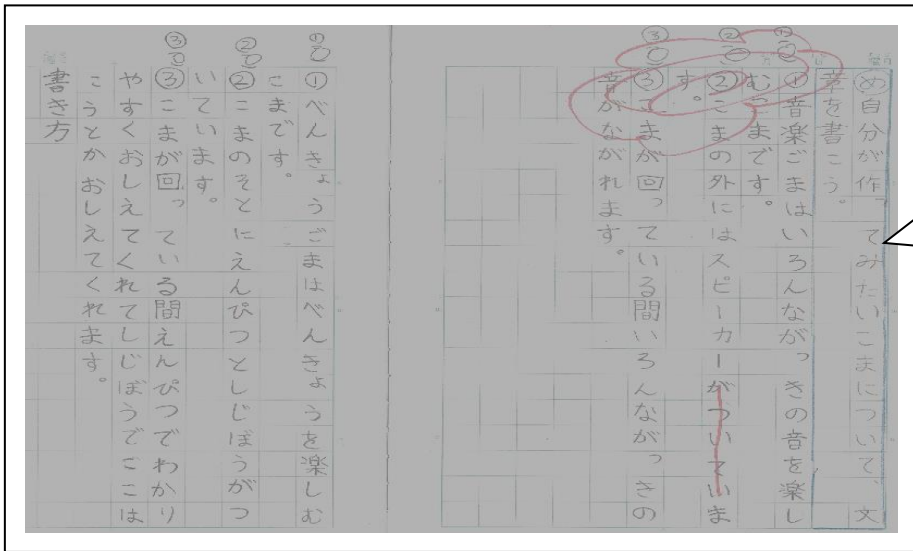
③個別支援のためのワークシート

① ()「ごまは、()を楽しみむごまです。
 ② 中に、()が入っています。
 ③ こまが () ()の間に入ります。[ワークシート]

個別支援が必要な児童には、ワークシートを用意していました。ワークシートを使用することで、全員が自分の作ってみたいこまについての文章を書くことができました。

① (うらない)「ごまは、(うらない)を楽しみむごまです。
 ② 中に、(うらないの本)が入っています。
 ③ こまが(回っている)間に(うらない)をしてくれます。[児童の文章]

④グループでの交流



家庭学習で考えてきたことをもとに、自分が作ってみたいこまについて、構成に気をつけながらノートに書きました。



質問
 「音楽が鳴っているとき、こまはどんなふうに戻っていますか。」

①音楽ごまは、いろんな楽器の音を楽しむごまです。
 ②こまの中にスピーカーが入っています。
 ③こまが回っている間、いろんな楽器の音楽が聞こえます。

1文目にこまの名前を書いて、2文目につくりを書いて、3文目にとちょうを書くことを勉強しました。



答え
 「音楽に合わせて光りながら回ります。」

みんな、3つの約束を守って書けていました。ぼくも、〇〇さんのようにいろんなこまを想像して書いてみたいと思いました。